

## ⑳ もうひとつの京都の推進と地域連携（もうひとつの京都の推進）

### 2040年に実現したい姿

#### 【「もうひとつの京都」が世界有数の観光ブランドとして確立】

- ⑦ 「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」、「竹の里・乙訓」について、観光地域づくりを更に深度化させ、それぞれの地域の住民の自信と誇りが高まるとともに、旅行者等に共感、愛着、満足度をもたらす「滞在型観光地」として、世界有数の観光ブランドとなっています。

#### 【「もうひとつの京都」の交流人口が拡大し、地域経済が活性化】

- ⑧ 「もうひとつの京都」それぞれの地域において交流人口が拡大するとともに、観光と農林水産業、文化、福祉、商工業、まちづくりなど、幅広い分野との連携強化により、地域経済が活性化しています。

### 4年間の対応方向・具体方策

**DMOが地域の総合プロデューサーとして、多様な主体と連携しながら、地域の豊かな資源を生かした体験型観光や地域づくりを進め、「もうひとつの京都」を促進します。**

- 1 地域コミュニティの再生と、「もうひとつの京都」をはじめとする地域政策を、地域の実情を踏まえ一体的に展開します。
- 2 地域資源を生かして、地域との交流や本物の魅力を体験する新たな観光コンテンツづくり、旅行商品の開発・販売など、体験型観光を拡大します。
- 3 「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」、「竹の里・乙訓」の「もうひとつの京都」と京都市の「とっておきの京都」との連携を進め、観光を入り口とした府域の活性化に取り組みます。
- 4 京阪神からの交通アクセスの改善や京都市発の観光周遊バスの運行等により、もうひとつの京都エリアへの送客を拡大します。
- 5 インバウンド誘客を促進するため、多言語ガイドの育成、滞在プログラムの開発・多言語化、キャッシュレス決済の推進及び旅館における受入環境整備などの取組を進めます。
- 6 令和3（2021）年3月に設立した「地域づくり京ファンド」等による、伝統的建造物や古民家等を活用した多様な宿泊施設を創出するとともに、カーシェアリングなどを活用した観光周遊を進めます。
- 7 世界中の観光客から「目的地」として選ばれるよう、SNS等を活用し、それぞれのニーズを踏まえたコンテンツの多言語発信を行うなど、情報発信力を強化します。
- 8 DMOが地域の総合プロデューサーとして、マーケティング、着地型旅行商品の開発・販売、戦略的なプロモーション、地域を語り案内できるガイドの育成等に取り組むとともに、DMO間での協力体制づくりや、隣接府県の観光協会やDMOと連携した観光商品づくりを進めます。
- 9 観光を入り口とした交流・中長期滞在、移住・定住を促進するとともに、市町村やDMOと連携して、ワーケーションや都市部企業向けの研修合宿等の誘致を進め、関係人口の拡大をめざします。

10 「日本茶800年の歴史散歩」、「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」などの日本遺産や、「農泊食文化海外発信地域」の認定を通じ、地域のブランド化を進めます。

11 世界遺産や重要文化的景観等の周辺を中心に、京都府公共事業景観形成指針に基づきサインを統一し、平等院周辺や天橋立周辺で無電柱化を進めるとともに、京都府景観資産を生かした地域振興の取組を市町村と連携して進めます。

12 海の京都DMOを中心に、京都府北部地域連携都市圏の水平連携による各施策や地域の民間事業者等と連携し、日本遺産や地域の食などの地域資源を発掘し国内外に発信することにより、海の京都の知名度アップに取り組むとともに、強いブランド力をもった観光圏の形成を進めます。

13 インバウンドの回復期を見据え、海外旅行会社との関係性を深め、インバウンド向けコンテンツの磨き上げや受入環境の整備を進めるとともに、京都市域はもとより、近畿圏内から海の京都エリアまでのアクセスの更なる向上などにより、エリア内の交流人口や観光消費額の拡大につなげます。

14 天橋立を中心とする地域の魅力を世界に発信するとともに、貴重な景観等を保全し、未来へ継承するための取組を図りながら、顕著で普遍的な価値の調査研究を進め、世界遺産登録をめざします。

15 森の京都DMOを中心に、豊かな森林資源を生かした林業振興と付加価値の向上、ブランド野菜、ジビエなどの食やスポーツ体験など、大都市との近接性を生かしたコンテンツづくりを進め、関係人口の拡大や移住・定住を進めます。

16 府立京都スタジアムを核として、観光、文化、スポーツ体験などの魅力ある地域資源を活用するとともに、新たに整備された桂川舟運歴史体験・展示施設「川の駅・亀岡水辺公園」などを拠点とし、広域的な観光周遊を促す取組をDMO等と連携して進めます。

17 平安時代から都を支えてきた豊かな森の文化と保津川の水運文化を保存・活用し、日本遺産の登録をめざします。

18 お茶の京都DMOを中心に、市町村や茶業会議所と連携・協働して、宇治茶をはじめとする地域資源を生かした観光コンテンツづくりに取り組み、文化と産業の両面から地域づくりを進めます。

19 世界で「緑茶のトップブランドは「宇治茶」と認知されるよう、宇治茶のプレミアムブランド化を進めるとともに、「京都府宇治茶普及促進条例」を契機とした振興や宇治茶の世界遺産登録に向けた取組を展開するとともに、宇治茶カフェを京都市域や首都圏にも拡大することにより、地域のブランド価値を引き上げます。

20 新名神高速道路などの道路網の整備やJR奈良線複線化などの進展を生かし、新たな地域資源の掘り起こしなどによるバスやカーシェアリングをはじめとした観光周遊を京都市やDMO等と連携し促進します。

21 「竹の里・乙訓」をコンセプトに、豊富な歴史的背景、自然環境や日本有数の産地でもある筍などの観光資源をはじめ、京都市に隣接しているという好条件を生かした戦略的な地域ブランド化を進めます。

22 交通の利便性や歴史・自然資源を生かし、各DMOとも連携した広域的なプロモーションや観光周遊を促す取組を進めます。